

できることから  
はじめよう！  
環境にいいこと  
ひとつずつ



# 城陽エコパートナー通信 Vol.81

発行日:令和6年(2024年)4月19日 編集・発行:城陽環境パートナーシップ会議  
会員数:269人(令和6年4月19日現在) (事務局)Tel(56)4061 Fax(56)3999

## 京都環境フェスティバル2024に出展しました！

文:大野 和宣会長

能登半島地震で被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復興と平穏な日常が戻ることを願っております。

去る2月3日(土)に「京都環境フェスティバル2024」が京都市伏見区の京都パルスプラザで開催されました。この「京都環境フェスティバル」は、子どもから大人まで、環境について楽しみながら学び考えることができる参加・体験型のイベントを開催することで、環境問題に対する府民の理解を深め、環境保全の意識の高揚や環境行動の実践につなげることを目的とし、京都府などが平成2(1990)年度より開催しています。

城陽環境パートナーシップ会議も日ごろの活動を紹介する形で「ふるさとの生きものたち」をテーマに出展しました。



開催に先だって京都府環境保全功労者表彰の式典があり、我が城陽環境パートナーシップ会議が環境保全部門で団体表彰されました。行政協力部門では当会議運営委員の小林駿さんが個人表彰されました。紙面を借りて皆さまにご報告いたします。

今年は「集まれ！未来の環境リーダー！！」をテーマに開かれました。出展規模は「ゴミを減らそう！」「温暖化防止・省エネへの取組」「3R(リユース・リデュース・リサイクル)」「いろんな生物について考えよう！」を小テーマにした企業、自治体、市民団体などの展示68コマに及びました。

最近の傾向としては再生可能エネルギーやリサイクル、資源保護、ゼロカーボン、カーボンニュートラルにつながるEV(電気自動車)に加えて、マイクロプラスチックによる環境汚染や生物多様性の保全に視点をあてた自然保護活動団体などの展示が増えているように感じました。

私たちは自然の恵みの中で暮らしています。四季折々の野鳥や動物、草花を愛でながら自然の変化を感じ取っています。しかしながら暮らしの中では二酸化炭素の増加や地球温暖化などの環境変化にはピンとこないのもまた正直なところ。特に緑が少ない日々喧騒な都会暮らしではこの傾向が強いのではないのでしょうか。私たちの将来の危機は人々が身近な自然や環境への関心を失うことです。若者の自然への関心が高まれば、いずれ地球温暖化、カーボンニュートラルへの関心にも繋がっていくのではないのでしょうか。それがひいては「未来の環境リーダー」を育てるのだと思います。

京都府は市町村と連携して地球温暖化防止対策を推進しています。今回の環境フェスティバルに参加してそれぞれの地域や団体が私たちのまち城陽市と同じ様に自発性とパートナーシップを基本に独自の取り組みをしていることを強く感じました。



# 古川野鳥観察会 ～河川改修による生息環境の悪化～

文：中川 宗孝委員

今年も恒例の冬の自然観察会が1月27日に開催され、北部コミセンを発着地点に、古川流域を探索し、27種類の野鳥を確認することができました。古川の冬の風物詩とも言える、のどかなカモたちの姿に、空飛ぶ宝石と称されるカワセミや、城陽市の鳥・白鷺、ケリやシギの仲間などを、26名の参加者たちと観察し記録しました。



▲古川流域冬季生息鳥類リスト



ケリ



コサギ(城陽市の鳥・白鷺)

今回の講師には、これまでも度々指導いただいている津市在住の秋井信幸さんと、昨年来、観察会や調査でお世話になっている竹野功壘さんをメインに、古川フィールドの調査メンバーである田部富男さんに鳥垣咲子さん、当会議メンバーの竹内康さんと長友恒人さんに加え、古川の魚の観察会でお世話になった林博之先生と野村隆俊先生もご参加いただき、魚や実習授業などの話題提供を頂きました。

これまで、古川をフィールドに小中学校の野外実習授業や「城陽生きもの調査隊」などの観察会で集積したデータをもとに作成した、野鳥や水棲生物たちの「生息リスト」を、当会でも活用し自然観察会を実施してきました。スタートから20余年を迎え、その記録も「城陽生き物ハンドブック」などに活かされ郷土の環境資料として現在に至っています。

とりわけ、冬期の野鳥観察の記録は、餌が乏しい季節に越冬地として生息できうる自然環境の豊かさの指標となるものです。これまで当会議主催の冬期観察会では累計79種類の野鳥を観察しました。3年前には、希少な旅鳥「オオハシギ」を観察し、城陽市鳥類目録210種類目に登録されました。この他にも13種類の記録があり、これらの数値は森林性の野鳥を除き、一年中生息する留鳥と渡り鳥の冬鳥たちの総計にも匹敵するものです。



事故死したキジが届けられ資料として観察した様子▶

◀ 観察会の様子



かつてはヘドロ臭漂う汚染河川で、フナやナマズなど数種類しか生息できなかった古川も下水道の完備でその汚名は解消され、絶滅危惧種のメダカやタナゴ類も見られるようになり、現在は29種類もの淡水魚が記録されています。

かたや野鳥はというと、ユリカモメやハマシギ、オナガガモなどの水鳥、オオジュリンやベニマシコなどよしむらの小鳥類の記録が近年途絶えつつあります。昨年の観察会の35種類と比べても、今年は種類も個体数も更に減少しました。考えられる最大の要因は、河川改修工事による生息環境の悪化によるもので、川沿いのヤナギの伐採、法(のり)面にあったヨシやススキなどの雑草木がコンクリートと金網張りに変わり、野鳥たちの餌場や外敵からの避難場所が奪われ、ヒレンジャクやイカルなどの渡り鳥の一時的な羽休めの場所としても期待できなくなりました。良好な探鳥地として知られた古川フィールドの衰退を寂しく思っています。

かつては、他で見ることでできないクイナや、夏鳥のヒクテナの越冬も観察会で確認していましたが、これらの絶滅危惧種や希少種と共に、もっとも一般的なクイナの仲間「バン」さえも今回の古川観察会では見られませんでした。野鳥記録から見えるこうした残念な結果も、環境を測るモノサシであり、次代に伝えていくことは大変意義深いことです。生息環境の悪条件の中、厳しい季節を生きる野鳥たちを見守りエールを贈る冬期の自然観察が末永く続きますように。



荒洲北橋にて参加者と記念撮影

令和6年  
5.11  
土曜日

## 次回 自然観察会のお知らせ

参加費  
無料

5月のバードウィークに、木津川河川敷に生息する希少な鳥類やさまざまな動植物の自然観察会と、当日は鳥の標識調査もおこないます。身近な河川の現状や生き物の観察を通して地球環境の大切さを再確認しませんか。



**日 時** 令和6年 5月 11日(土) 9:00~12:00  
**集合場所** 木津川河川敷グラウンド(テニスコート横)  
**内 容** 木津川河川敷周辺の鳥類や動植物の観察  
**対 象** 市内在住、在学、在勤の方(小学生以下は保護者同伴)  
**講 師** 岡井勇樹氏、竹野功壘氏(共に環境生物研究会)

**持 ち 物** 筆記用具、飲み物、タオル、帽子、双眼鏡など

※雨天中止 判断しかねる時は、当日 8:30~8:45 に事務局へ問合せ  
※駐車スペースに限りがありますので、できるだけ徒歩や自転車でご参加ください。

### 申し込み方法

窓口へお越しいただくか、お電話にて申し込みください。

※令和6年 4月 16日(火)から受付開始

城陽環境パートナーシップ会議事務局(城陽市役所環境課内)

☎0774-56-4061



エコ・アクション・ポイント対象の環境イベントです!

イベント参加でポイント付与。詳しくは市ホームページをご確認ください!



市公式ホームページ

## 第28回 さんさんフェスタ に出展しました!

文: 芦原 昇 副会長

2月11日、文化パーク城陽の市民プラザにて「第28回さんさんフェスタ」が開催されました。

城陽環境パートナーシップ会議も毎回出展をしているこのイベントですが、コロナ禍でここ数年は中止や展示のみの開催だったため、今回は4年ぶりのフル開催となりました。我々も久しぶりにブースを設けての出展を果たし、外来生物の資料展示と合わせ、長年続けている「省エネ診断」のワークショップをおこなうことができました。

過去の経験則から、呼び込みをしてもなかなか診断を受けてくれる人も少ないだろうと、高を括っていた省エネ診断ですが、開始と同時にその考えは一変しました。12時のワークショップ

開始の合図を前に、会場には人だかりができており、

2人の診断員と1台のパソコンではとても追いつかないほどの盛況ぶりでした。

今回より、来場者がすべてのエリアに立ち寄れるようにという

配慮で、主催側が用意したスタンプラリーの設置場所のひとつが我々の「省エネ診断」になっていたのですが、それを割り引いてもこの事態には正直びっくりしました。省エネ診断を始めて以来、受診者の合計が50人を超えたのも初めてのことでした。

持続可能な社会の実現を目指すSDGsの13番目の目標には、「気候変動に具体的な対策を」と掲げられています。残念ながら、国際的な枠組みの中で我々ができうることは少ないものの、こういった省エネ診断を通じて、個々人の環境意識を高めることも大事なツールだと感じました。今回は、たくさんの方に自分たちの生活を振り返ってもらうことができ、意味のある一日でありました。

当日の診断結果のデータを見てみると、省エネ点数もおおむね高得点で、環境に関心のある人が多かったように感じられました。ですが、参加者の割合が比較的少なかった若年層を始め、環境意識の向上を促し、すそ野を広げる活動にはまだまだ課題が残っています。

# 2024年 第8回 グリーンカーテンフォトコンテスト

今年も、城陽市内で栽培されたグリーンカーテンの写真を募集します。  
これを機にグリーンカーテン栽培にチャレンジしてみませんか！

## ○募集テーマ

2024年に城陽市内で応募者(市内在住)が栽培に取り組みましたグリーンカーテンの写真。

## ○応募資格

プロ・アマ問わず、応募要項に同意いただける方はどなたでもご参加いただけます。但し、城陽市内のご自宅で育てられたグリーンカーテンの写真に限ります。

※1人1点まで ※組み写真は不可。

## ○作品サイズ

A4 サイズ(210mm×297mm) ※カラー・モノクロ・縦位置・横位置は問いません。

**副賞** 最優秀賞 1点(商品券 5,000円分)・優秀賞 1点(商品券 4,000円分)  
環境賞 1点(商品券 3,000円分)・佳作 複数点(粗品の進呈)  
今回より、参加者全員にエコ・アクション・ポイント 500P 進呈！

詳細は事務局にお問い合わせください。

応募締切

2024.

9.30(月)

※当日消印有効

城陽市内で栽培された  
グリーンカーテンの  
写真をご応募ください！

会員の皆さまへ！

## エコパートナー通信(本通信)を 電子版にしませんか？

城陽環境パートナーシップ会議が、年4回お届けしているこの「エコパートナー通信」ですが、**ペーパーレス化**による **CO2削減**の観点から、電子送付へのご協力をお願いしています！

### ●会員通信の電子送付の申し込み方法について

右の QR コードを読み取り、専用フォームから必要事項を入力し、送信ボタンを押してください。



※ご入力いただいた情報は本人確認

および会員通信送付のためにのみ使用します。

現在、会員数**269名**のうち、**50名**が電子送付にご賛同いただいています！



電子送付にご協力の方には、  
毎号**エコ・アクション・ポイント**  
を進呈します！※次号より開始

## エコ・アクション・ポイントとは？



環境省が推進する全国共通のポイントプログラムです。対象のエコアクション(環境にやさしい行動、サービスの利用等)を行うとアプリ上でポイントが付与され、貯めたポイントは各種ギフトカードや商品と交換することができます。

城陽市では、令和5年8月からエコ・アクション・ポイント事業を開始しています。



市ホームページ



アプリのダウンロードは以下から  
シロクマのマークのアプリです！



App Store  
からダウンロード

iPhone など



Google Play  
で手に入れよう

Android

アプリをお持ちでない場合公式サイトからも会員登録ができます。  
ホームページ▶ <https://www.eco-action.jp>

※アプリや登録方法に関するお問い合わせは、エコ・アクション・ポイント事務局まで  
(☎0120-889-614 10:00-17:00/土・日・祝・年末年始休)

## 株式会社 城南工建

〒610-0113 京都府城陽市中芦原27番地の1  
TEL 0774-53-3939 FAX 0774-55-1172

## 東城陽ゴルフ倶楽部

〒610-0121 京都府城陽市寺田奥山 1-48  
TEL 0774-52-1161

近畿砂利協同組合、京都城陽ロータリークラブ、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、城陽市、城陽商工会議所、  
城陽金融会、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、(株)平和堂アル・プラザ城陽、  
(株)ミズホ、森澤博光 ※令和6年3月末現在(五十音順・敬称略)

上記の団体・個人から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。